

本書で利用するソフトウェアの入手方法

本書で利用するソフトウェア一式と補足解説を、CQ出版社ホームページ (<http://shop.cqpub.co.jp/hanbai/books/42/42111.html>) で公開しています。下記のプログラムや解説を無償で入手できます。

●パソコンにインストールするプログラム

- ・付属マイコン基板との接続テスト用プログラム (tx232char.exe)
 - ・付属マイコン基板へのユーザ・プログラム書き込みツール (dspicguy.exe, hexconv.com, loadspic.exe など)
- (注) 統合開発環境 MPLAB IDE とコンパイラ MPLAB C Compiler for dsPIC (Student Edition) は、マイクロチップテクノロジー社のホームページからダウンロードします (<http://www.microchip.com/>)。ダウンロードの具体的な方法はCQ出版社の上記ホームページで解説しています。

●記事で紹介されているプログラム・ソース (フォルダ名: source_yamaguchi)

▶第2章

- ・最初に作るプログラム (mydspic.c)

▶第5章

- ・リスト5-1: LED制御 (led1.c) ・リスト5-2: LED制御 (led2.c) ・リスト5-3: LED制御 (led3.c)

▶第6章

- ・リスト6-1: 7セグメント2桁LED表示モジュール (led10.c)
- ・リスト6-2: 8×8ドット・マトリクスLED表示モジュール (led11.c) ほか

▶第7章

- ・リスト7-1: RS-232C双方向通信 (serial_loopback1.c)
- ・リスト7-2: RS-232C双方向通信 (serial_loopback2.c) ほか

▶第8章

- ・リスト8-1: カラーLEDの制御 (color_led1.c) ・リスト8-2: カラーLEDの制御 (color_led2.c)
- ・リスト8-3: カラーLEDの制御 (serial_led1.c) ・リスト8-4: PWMファン・コントローラ (pwmfan1.c) ほか

▶第9章

- ・リスト9-1: スイッチの状態を読みとる (sw1.c)

▶第10章/第11章

- ・リスト10-1: ブザーを鳴らす (buzzer1.c) ・リスト10-2: 音を鳴らす (beep1.c) ・リスト11-4: 音を鳴らす (beep2.c)

▶第12章: dsPIC対応プログラマの製作 (フォルダ名: writer_onodera)

本章の関連記事や最新のソフトウェアを下記、著者 (小野寺 康幸氏) のホームページから入手できます (2009年6月時点)。

- ・dsPIC/PIC24ライター紹介ウェブページ <http://einst.hp.infoseek.co.jp/dsPICer/dsPICer.html>
- ・dsPIC/PIC24ライター～ハードウェア編～ <http://einst.hp.infoseek.co.jp/dsPICer/dsPICerHW.html>
- ・dsPIC/PIC24ライター～ソフトウェア編～ <http://einst.hp.infoseek.co.jp/dsPICer/dsPICerSW.html>

●dsPIC30F2012用ブート・ローダ

▶付属マイコン基板に書き込み済みのブート・ローダのHEXファイル (preprog.hex)

動作テスト・プログラムも一緒にマージされています。dsPIC対応のプログラマがあれば、付属マイコン基板の

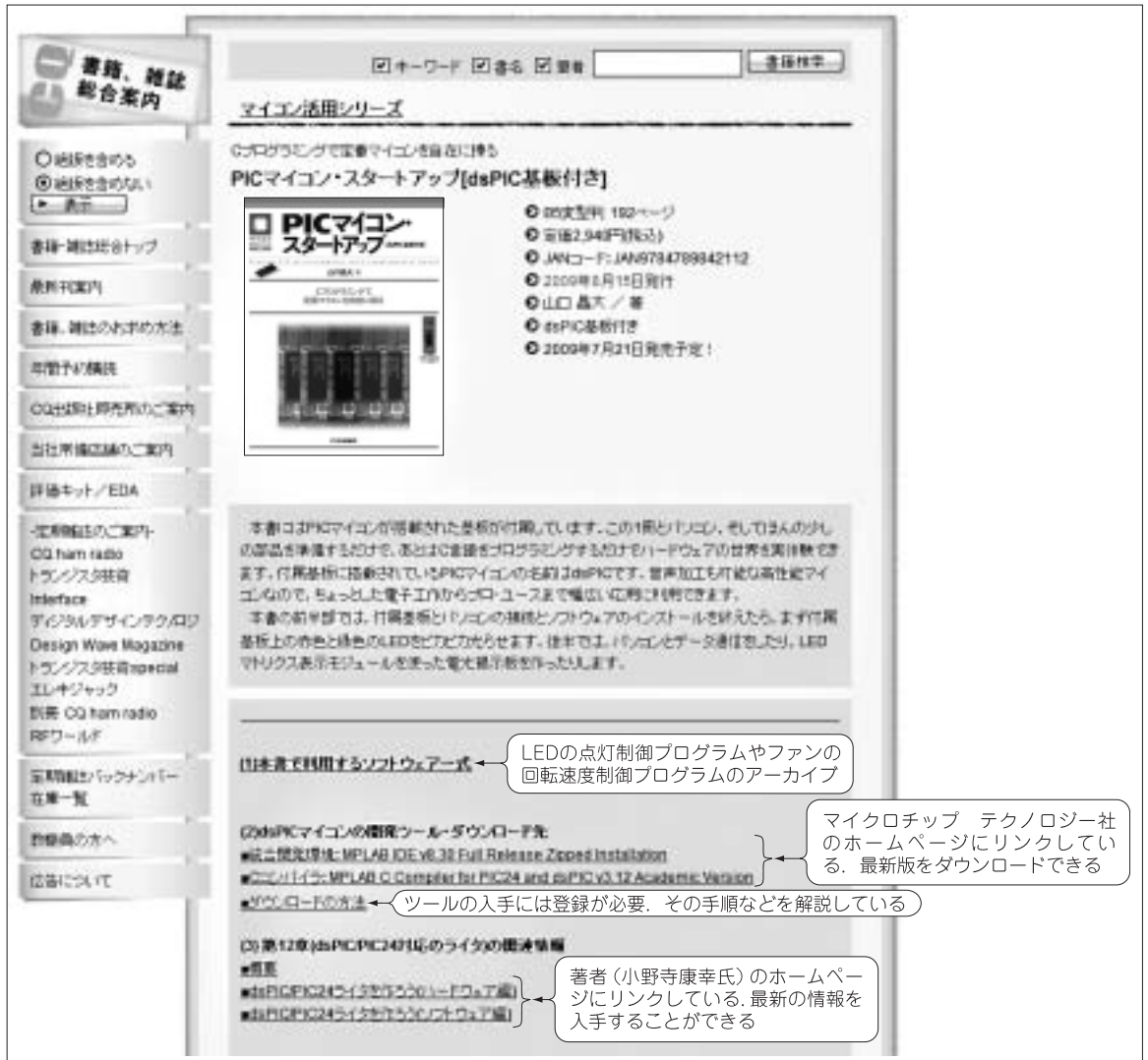


図 A 本書で利用するソフトウェアは CQ 出版社のホームページからダウンロードできる

クローンを作ることができます。個人や教育用途であれば無償で使用してかまいませんので、自由にご利用ください。

▶低消費電力版ブート・ローダ (bt1d7_5.hex, bt1d15.hex)

dsPICの動作周波数を下げて消費電力を減らしています。電池動作の機器の製作などに適しています。書き込みにはdsPIC対応のプログラマが必要です。

▶低消費電力版ブート・ローダ用動作テスト・プログラム (pre7_5.hex, pre15.hex)

●各種サンプル・プログラムと回路図

本書で紹介できなかった実験用のサンプル・プログラムと回路図をダウンロードできます。LCD表示モジュールやキーボード (PS/2)、マウス (PS/2)、シリアルEEPROM、温度計測ICなどの接続や実験に挑戦してみてください。

